# 子どもたちの権利を守る多職種連携と協働

富岡　麻子
北海道大学病院医療技術部　精神保健福祉士

日本の精神科医療（特に社会的入院問題）は諸外国からの立ち後れが指摘されており、その中で児童に関わっていく難しさを日々感じている。閉鎖病棟や隔離拘束など、精神保健福祉法下で保障された独自の治療構造は精神科固有のものであり周囲から誤解を受けることも多い。一方で精神科には多職種協働の文化があり、カンファランスや治療プログラムに各職種が組み込まれており、心理社会的な治療は原則チームアプローチで行う理念を診療科全体が共有している。このような多職種協働の流れが子どもに対応する領域で拡大していくことが今後不可欠になっていくと考えられる。

講演ではまず、大学病院の児童精神科ソーシャルワーカーという立場で心理社会的な治療に携わっているなかで、福祉の基盤を持つ唯一の職種としてアドボカシー（権利擁護）の視点を常に意識し外来や病棟の子どもたちに接していく必要性について共有したい。ソーシャルワーカーが支援に加わることで得られるメリットをお伝えし、医療機関や地域に散在するソーシャルワーカーをご今後活用いただけるようにスキルを共有したい。

子どもたちの権利を守るチーム支援の「多職種連携と協働」について、北大病院精神科における連携と協働パターンをふり返りながら有機的で実効性のあるチーム形成について検討したい。うまく連携がとれないと思う時そこに何が起こっているのか、人や機関同士がつながる時のインターフェイスに着目し、つながり方や役割分担の有り様を整理しつつケースを通してご提案したい。また、ハブ機能を持つ人や機関が現れればシンプルな構造化が可能となるが、実臨床面での困難さについても議論したい。

互いがコミュニケーションをとるのは相手との差異を埋めようとするからである。それぞれの職種が自分の専門性（できること+できないことの限界）を知るだけではなく、それを相手に伝える努力も必要と考える。連携先をアセスメントした上でつなぐ・託すことで、同じ方向性を向き、同じ目的を有するチーム全体の支援力が飛躍的に向上する可能性について議論していきたい。


Presented by Medical*Online